

樟 蔭 学 園 報

Vol. 181
2019 Summer

くすのき

Kusunoki



駐日ウガンダ大使との交流会

CONTENTS

● 巻頭特集 — 国際英語学科の留学プログラム

留学＋インターンシップで 自分の可能性を発見

1

● こもれびの窓 — 「戦時下にあっても
明るく生き生き過ごした学園生活」 藤井 敏さん

3

● NEWS — 「各校の卒業式&入学式」ほか

5

● 育むところ — 「誇りを持ち、未来を見つめて学び続けてほしい」
猪俣 恵美子先生

12

● CLUB NAVI — 大学 箏曲部「心を合わせて紡ぎ出す
温かく優雅な音色」 ●●●さん

13

● 2018(平成30)年度決算概要報告

15

● Information — 「イベントのお知らせ」など

17

● FORUM — 「新任教員紹介」ほか

18

● リレー★コラム 小嶋 祥吾先生 & 私のイチ押し! 中 周子教授

19



はばたけ、知性。



留学先のオークランド大学



現地の授業の様子

留学＋インターンシップで 自分の可能性を発見 国際英語学科の「全員留学」プログラム

学芸学部国際英語学科では2017年度入学生から2年生の秋学期に全員が海外留学（ニュージーランド※）を体験するカリキュラムをスタートさせました。約4カ月の留学に加え、希望者には1カ月の現地インターンシップも実施するというユニークなプログラム。その狙いは何か、また学生たちは海外で何を学び、どのように成長したかをお伝えします。

※「日本語教育実習」を含む留学プログラムはカリフォルニア大学フレズノ校（米国）で同時期に実施します。



現地の授業の様子



美術館でのインターンシップの様子



留学先での●●さんと●●さん

24時間英語だけの世界に身を置く

国際英語学科では、2年生の秋期に留学＋インターンシッププログラムを実施しています。学生たちは、これまで長い時間をかけて英語を勉強してきましたが、学んだ英語は実際に通じるのか。留学はそれを試すよい機会です。

留学先のオークランド大学では授業中も休憩時間も、ホームステイ先でも、24時間が英語の世界。そこで会話の輪の中に入って行き、自分から話題を提供していくのは大変なことです。勇気も必要ですし、相手のことを考え、話をつないでいく配慮も求められる。それだけハードな経験を経て、ようやく真のコミュニケーション能力が磨かれていきます。

インターンシップ先決定も自分の力で

オークランド大学での4カ月の留学を終えた後、現地でインターンシップを経験した学生もいます。インターンシップ先が決まるまでのプロセスは、現地のペースなので、学生から見ると、なかなか前に進まないように感じられる場面もあったでしょう。しかし、現地

の考え方に慣れることもまた、国際経験だと言えます。インターンシップへの挑戦は、自分の力で未来を切り開き、1つずつ壁を乗り越えていく、素晴らしい経験だったと思います。

帰国した学生たちは、大きく成長しました。英語力の向上という点から見ると、相手の発言に対する反応が良くなります。また英語だけでなく、日本語においても話す力や交渉力が格段に伸びています。広い世界を見聞し、知的好奇心が深まり、新しいことにチャレンジする意欲が高まったと感じます。

報告会で成長の様子を披露

帰国して間もない3月初旬に、学生たちは保護者の皆さん、教職員、下級生を前に報告会を行いました。保護者の中には留学の報告を聞くのはこの時が初めてで、わが子の成長を実感された方もおられました。どんな経験をし、何を感じたかを、自分の言葉で堂々と伝える学生の姿に、私たちも感動しました。

今年度の留学準備

今年度から留学先としてオークランド工科



大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国際英語学科 学科長

藤澤 良行 教授

大学が加わります。2分割することでより効果を高める狙いです。また英語の他に「日本語教育実習」を含めたカリフォルニア大学フレズノ校（米国）でのプログラムも今年度から動き出します。

今年度の出発は9月28日（フレズノ組は8月22日）。2年生は留学準備の最終段階です。オンライン英会話の授業も熱を運び、留学の実感が高まっています。我々教員は彼女たちの頑張りを全力でサポートします。

報告会の様子



多様な価値観に触れ、 常識にとらわれない柔軟さを学びました

●● ●●●●さん（国際英語学科3年生）

オークランド大学では、教室が元気いっぱいという感じで、先生は音楽をかけながら授業を進めます。授業は会話が中心で、常に自分の意見を聞かれます。アジア各国や南米から集まった留学生たちは反応がよく、すごいスピードで会話が広がっていくので、英語に慣れるまではうまく聞き取れませんでした。でも1カ月を過ぎる頃からその速さに慣れ、どんどん発言できるようになりました。

ホストファミリーはブラジルからの移民一

家。英語圏だけでなくブラジル文化にも触れることができたのは、この留学のうれしいサプライズでした。週末には人が集まってにぎやかにパーティ。本当に楽しかったです。

留学中、さまざまな人に出会って、世界には多様な考えがあることを発見。これまで当たり前前と思っていたことも、決して当たり前でないと実感しました。また、自分と異なる考えに直面した時は、緊張しすぎないで「何とかなる」というリラックスした気持ちでいると受



け入れやすいと思いました。

将来は、中学・高校の英語科教諭になりたいと考えています。生徒たちに、自分の体験をもとに世界の広さや多様性について語れたらと考えています。

英語でどんどん話しかけられる、緊張が 喜びに変わりました

●● ●●●●さん（国際英語学科3年生）

留学の後、現地の人々と触れ合える仕事が体験したいと、現地インターンシップに参加しました。派遣先は「Lake House Arts Centre」という地元の美術館で、施設の受付を1カ月間担当しました。市民向けの絵画教室や、移民対象の英語教室も開催しているため、受付にやってくる人々も多様で、参加目的もさまざま。どんな質問が飛んでくるか、ドキドキしながら毎日を過ごしました。来場者は、私が外国人と分かっても決して英語のハード

ルを下げてくれず、ナチュラルスピードでどんどん話しかけてきます。スタッフの皆さんが親切にサポートしてくれましたが、とっさに自分で対処するしかない場面が何度もあり大変でした。それでも慣れていくにつれ、受付での会話が楽しくなっていました。

インターンシップのおかげで英会話の度胸がつき、帰国後も、授業中は「失敗しても構わないから自分の意見を言おう」と考えるようになりました。また、ネイティブスピーカー



の英語をたくさん聞けたため、リスニングが非常に伸びました。将来は観光業界などで英語に関わる仕事がしたいと考えています。全員留学という国際英語学科のプログラムを活用して留学でき、インターンシップにもチャレンジできて本当によかったと思います。

戦時下にあっても 明るく生き生き過ごした学園生活

大阪を代表する繁華街・心斎橋筋の真ん中で藤井呉服店の女将を務める藤井敏さん。今もお店に立ち、お客さんへ着物のアドバイスを行うかたわら、展示会の案内やお礼状を自ら書いています。藤井さんに樟蔭の思い出や戦時下の学園生活の苦労、今日まで続く友人との交流などを伺いました。

株式会社 藤井呉服店
藤井 敏さん(旧姓：村山)

1943年3月 樟蔭高等女学校卒業



高等女学校時代の友人と

◆優しい先生たち

樟蔭高等女学校に入学したきっかけは、母の勧めがあったからです。母は以前から、「上品な学校」に娘を入れたいと思っていたようです。樟蔭はそんな母のメガネに叶ったのでしょう。1938(昭和13)年春から始まった5年間の女学校での生活は、楽しいことがいっぱいありました。

先生との思い出はたくさんあります。先生は私たちを大変可愛がってくださいました。今で言うと生活指導に当たる教護の中村先生。生徒の間では怖い先生として知られていましたが、私たちにはとても優しくしてくださり、冗談交じりの楽しい会話が弾んだものです。

当時、憧れていたのは東洋史の奥浦先生。かっこいい先生でした。学内の藤棚の下で先生とお話するのは本当に楽しかったですね。先生に褒められたいと、東洋史は一生懸命勉強しました。だから成績も良くなり、よけいに可愛がられたのだと思います。

ところが先生は、私が在学中に病気で亡くなりました。それを知った時は定期試験の時期で、ショックで泣きながら試験を受けたのを覚えています。

◆英語をもっと勉強したかった

苦手だったのは体育でした。「お腹が痛い」「風邪をひいた」など、何とかして授業を休む口実を探しました。先生も仮病だろうと分かっていたので、「今日の休む理由は何かな」と面白がっておられたような気さえします。

英語の勉強には悲しい思い出があります。戦争が始まって英



ふじい・とし 大阪市出身。中央区内本町の呉服問屋に生まれる。樟蔭高等女学校2年生の時に、同業者の藤井甚七氏(当時、陸軍少尉)と知り合う。卒業後、1947年に結婚。同年、夫婦で三代目藤井呉服店を空襲で焼け野原の心斎橋筋に開店。以来、藤井呉服店の経営陣の一人として、母として、今日に至るまで活躍している。



語の授業は続いていましたが、時局が激しくなるとそれも難しくなり、思うように勉強ができなくなりました。単語はたくさん覚えましたが、文法をきちんと学べなかったのが心残りです。だから、「英語をもう一度きちんと勉強したい!」という気持ちは今も持ち続けています。

辛かったことも鮮明に覚えています。それは田植えです。戦争が始まり働き手が出征する中、食料確保のために国からの命令で学校内に畑や田んぼを作り、生徒たちが農作業をするのです。泥田に入り腰をかがめ、慣れない手つきで苗を植える作業は本当にきつかったですね。

◆友人との思い出

当時は、女の子だけで旅行するなんてできない時代でしたから、代わりに互いの家に友人が遊びに来ることは頻繁にありました。一緒にご飯を食べたり、家にあったアップライトピアノを弾いて歌を歌ったりして遊びました。のちにピアニスト(注1)になった弟と一緒に小さい頃はピアノを習っていたのですが、弟がピアノを占領していたため、私はあまり上達しませんでした。それでも楽譜は読み、音感も身に付きました。そのころ、どんな歌を歌っていたかは定かではありませんが、当時の流行歌は覚えていますから、家のピアノに合わせ、そういう曲を歌っていたのかもしれません。

友人たちとは、卒業後も同窓会でよく顔を合わせます。顔を合わせるたびに、昔話に花が咲きます。1942(昭和17)年、樟蔭学園の創立25周年記念に全校生徒の前で狂言を演じた時のことは、今も話題にのぼります。戦時中でしたが、日本の伝統芸能ということで上演が許されたのでしょう。本格的に狂言を習っていた父の指導で私と友人が大名、太郎冠者に扮して狂言を行いました。衣装も

本格的で先生、生徒たちから拍手喝采を受けました。

◆結婚後は家庭と仕事の両立

戦後、空襲の焼け野原の中で結婚しました。長女が生まれた頃は食糧不足で、市場もなくお米を買うのも一苦労でした。主人が大阪呉服会の理事長に就任してからは交際範囲も広がり、ますます多忙になりました。続いて、4代目社長となる長男が誕生。夢中で仕事をし、子どもたちを育ててきました。現在は、テレビでクイズ番組や相撲を見るのが好きです。自分でもクイズに挑戦していますし、相撲は星取表を付けて楽しんでいます。

◆明るく朗らかな樟蔭生

気がつけば70年以上の歳月が過ぎて行きました。たくさんの楽しい思い出を作ってくださった樟蔭の先生、友人の皆さんには本当に感謝しています。

今でも時折、お店に来られたお客さんと何気なくお話ししていても、「あっ、この方は樟蔭の出身かな?」と感じることがあります。伺ってみるとやはり樟蔭の卒業生。明るさ、さりげない上品さ、そういう樟蔭らしさは今も変わらないのかなと思い、とてもうれしくなります。若い樟蔭生の皆さんはこれからも、生き生きと朗らかに人生を楽しんでほしいと思います。

(注1) ピアニスト 村山萬幾郎さん



高等女学校時代の藤井さん



卒業後のグループ写真



クラスの集合写真

学園



ご卒業・ご卒園

3月、1014人(幼稚園42人、中学校88人、高校290人、大学585人、大学院9人)が学園を巣立ちました。学園で過ごした思い出を胸に、新しい世界で活躍することを願っています。そして4月、1071人(幼稚園37人、中学校96人、高校249人、大学682人、大学院7人)が入学しました。新入生たちはそれぞれの夢に向かって新しい一歩を踏み出しています。充実した学校生活を送ってほしいと思います。



ご入学・ご入園



学園

樟蔭同窓会総会、東京支部総会を開催



また、6月3日(月)には東京ステーションホテル(東京都千代田区)で東京支部総会が開かれました。演田佳奈子さんの世界最古の電子楽器「テルミン」演奏の後、校歌を歌い、母校へ思いを馳せながら和やかに閉会しました。

5月19日(日)、シェラトン都ホテル大阪(大阪市天王寺区)で樟蔭同窓会総会が開催されました。約230人が参加。昨年の会計・活動報告や任期満了に伴う改選が行われ、新会長の野田圭子さんをはじめとする新役員が決定しました。親睦会では、チェリストの日野俊介さんとピアニストの米山久美子さんのコンサートや恒例の福引大会などを楽しみました。



同窓会新会長に野田圭子さん

5月19日(日)に開催された同窓会総会で、新会長に野田圭子さんの就任が決定しました。

●野田新会長のあいさつ

時代が平成から令和へと変化する中、母校も新学部を開設し、国際教育の充実を図るなど、大きく変わろうとしています。しかし伸びやかで明るい樟蔭の校風は変わることなく生き続け、卒業生はいつの世にも受け入れられる大らかで芯の強い女性として、社会、地域、家庭で活躍されています。本年度も同窓会総会やバスツアーなど様々な行事を企画しています。ぜひご参加ください。

2018年度 学生表彰

学業や課外活動等において顕著な成績を収め、他の学生の範となった学生に対し、その功績を讃えました。学業優秀者表彰では森平蔵賞が9人に、学業奨励賞が66人に贈られ、課外活動等表彰では学長賞が6団体と、個人3人に贈られました。

1 学業優秀者表彰 学業において研鑽に励み、他の学生の範となった個人を表彰します。

■ 森平蔵賞 (2019年3月卒業生) 在学中の学業成績が評価

◎●●●●(大学院・臨床心理学) ◎●●●●(大学院・化粧ファッション学) ◎●●●●(国文) ◎●●●●(国際英語) ◎●●●●(心理)
◎●●●●(ライフプランニング) ◎●●●●(被服) ◎●●●●(児童教育) ◎●●●●(健康栄養)

■ 学業奨励賞 2018年度中の学業成績が評価 ※ ()内は2018年度の年生を記載

◆ 国文 ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(4) ●●●●(4)	◆ 被服/化粧学・美容 ●●●●(4)	◆ 健康栄養/管理 ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(3) ●●●●(3) ●●●●(4) ●●●●(4) ●●●●(4)
◆ 国際英語 ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(4)	◆ 化粧ファッション/ファッション学 ●●●●(1) ●●●●(2)	◆ 健康栄養/食物 ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(4)
◆ 心理 ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(3) ●●●●(4) ●●●●(4)	◆ 化粧ファッション/化粧学・化粧文化 ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(3)	
◆ ライフプランニング ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(4)	◆ 化粧ファッション/化粧学・美容 ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(3)	
◆ 被服/被服学 ●●●●(4)	◆ 児童教育 ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(1) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(2) ●●●●(3) ●●●●(3) ●●●●(3) ●●●●(4) ●●●●(4) ●●●●(4)	
◆ 被服/化粧学・化粧文化 ●●●●(4)		



2 課外活動等表彰 課外活動において優秀な成績を収めた個人または団体を表彰します。 ※ ()内は2018年度の年生を記載

■ 学長賞 個人

- (児童教育4年生)
【理由】AGG及び新体操の国際・国内競技大会において優秀な成績を収めました。
- (ライフプランニング4年生)
【理由】新体操の国内競技大会において優秀な成績を収めました。
- (被服/化粧学・美容4年生)
【理由】「第10回全国理容美容学生技術大会」ヘアデザイン画部門にて金賞を受賞しました。

■ 学長賞 団体(代表者)

- グリムプロジェクト2018 ●●●●●(児童教育3年生)
【理由】香芝市との協働事業を中心に包括連携協定先である東大阪市、門真市、和歌山県かつらぎ町で子育て支援を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。
- ナイトミュージアムプロジェクト ●●●●●(化粧ファッション3年生)
【理由】東大阪市文化国際課より依頼を受けて「ナイトミュージアム」で学科の学びを活かした作品展示を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。
- かつらぎ町造形活動プロジェクト ●●●●●(児童教育3年生)
【理由】和歌山県かつらぎ町の地域事業に参画し子ども園の5歳児を対象に造形活動を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。
- 樟徳館特別公開MAP作成プロジェクト ●●●●●(健康栄養2年生)
【理由】「ひがしおおさかまち博」にて来館者に樟徳館の魅力を伝える「見どころMAP」を制作する活動を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。

◎ 各種団体による表彰 (2019年3月卒業生)

- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ●●●●●(心理)
- 日本衣料管理協会(1級) ●●●●●(被服/被服学)
- 日本衣料管理協会(2級) ●●●●●(被服/被服学)
- 美容師養成施設(大阪府知事) ●●●●●(被服/化粧学・美容)
- 全国保育士養成協議会 ●●●●●(児童教育)
- 全国栄養士養成施設協会 ●●●●●(健康栄養/管理)
- 日本フードスペシャリスト協会 ●●●●●(健康栄養/食物)
- (健康栄養/食物)



大学

特殊メイクの江川悦子さんが
客員教授に就任

特殊メイク業界のバイオニアとして、多くの俳優・監督・プロデューサーの方々に絶大な信頼を誇り、様々な作品を世に送り出す江川悦子先生。本学化粧ファッション学科講師として長年、学生指導にあたり、4月から客員教授に就任しました。

江川先生は特殊メイクアーティストとして活躍を続ける一方で、ハリウッドの撮影現場で学び取った特殊メイクの技術を、惜しみなく後進の指導に振り向けています。「特殊メイクでは、役者さんとのやりとりなどを通じ、役柄を内側から捉えることが重要です。大学ではテクニック・技術の習得が中心になりますが、外面だけでなく内面も含めたトータルな美を理解する力を磨いて、社会で活躍できる女性



制作会社メイクアップディメンションズ代表。1979年、米・ハリウッドの「Joe Blasco Make-up Center」入学。卒業後は映画スタジオの助手として『デューン/砂の惑星』『ゴーストバスターズ』などのプロジェクトに参加。特殊メイクの第一人者リック・ベーカー氏に師事する。1986年に帰国し、制作会社を設立。

になることを願っています。また、大学の4年間にしっかりと自分の生き方を考え、これからの人生の指針を見つけてほしい」と樟蔭生への期待を語りました。



大学

言葉が文化を創り出す
第11回田辺聖子文学館ジュニア文学賞表彰式

中高生を対象に小説やエッセイ、読書体験記を募る「田辺聖子文学館ジュニア文学賞」の表彰式を3月19日(火)、シェラトン都ホテル大阪で開催しました。11回目となる今年は、海外からの応募も含め3120点が寄せられました。最高賞の「田辺聖子賞」に輝いた神奈川県・フェリス女学院中学校3年の●●●●●さん、東京都・女子学院高校2年の▲▲▲▲さんらに賞状や記念品が手渡されました。

審査委員長の中西進文学館館長は「人間の言葉こそが文明を築き、文化を作り出すもの。君たちは将来必ず、その担い手になると思います」と、選考委員の林真理子さんは「自己表現する力は財産。この賞がずっと続くといいと思います」と述べました。



中学校・高校

駐日ウガンダ大使を招いて交流会
ウガンダ・プロジェクト

「ウガンダ・プロジェクト」は、中学生・高校生が家で眠っている文房具を集め、ウガンダの子どもたちに贈るとともに、ウガンダ産オーガニックコットンの補助カバンを使用するという取り組みです。5月17日(金)、ベティ・グレース・アケチ・オクロ駐日ウガンダ大使を招いて交流会を行いました。

まず、国際教養コースの中学2年生2人がプロジェクトについて説明。続いて、大使が両国の交流の模様、ウガンダの繊維産業や現状を紹介し、「日本とウガンダの関係が今後、より強固になることを願っています」と締めくくりました。生徒たちは「ウガンダの文化に興味を持ったので、ぜひ行ってみたい」と話していました。



交流会の様子は、新聞各紙やネットニュース、東大阪市広報番組でも紹介されました。

学園

学園旧蔵の貝類標本が博物館で展示

学園が樟蔭高等女学校創立時(1917年)に、理科の教材用に購入した貝類の標本約500点が、大阪市立自然史博物館で4月27日(土)~5月26日(日)まで展示されました。この標本は、1908年から1930年にかけて、貝類収集・研究家の矢倉和三郎氏が神戸市の自邸に開いていた貝類博物館が閉館し、売却された後、行方不明になっていた所蔵品の一部です。昨年、学園の貝類標本を調査したところ、貝類博物館から購入したものであることが判明。同館由来の標本がこれだけまとまった形で発見されたことは今までにない、貝類博物館の活動内容や当時の日本周辺の貝類の生態系を知る貴重な手がかりになると期待されます。学園が「展示や研究に広く活用してほしい」と大阪市立自然史博物館に寄贈し、今回、公開展示の運びとなりました。



サクラガイ伊勢



イソシジミ摂津

大学院

くすのき健康栄養センターで離乳食講座

くすのき健康栄養センターは3月16日(土)、「栄養を考えた調理のコツセミナー〜すくすく離乳食〜」を開催しました。「美味しく栄養バランスにも配慮した離乳食を作ってあげたいけれど、本格的なメニューは手間がかかりそう」とお悩みのお母さんを対象に、離乳食づくりや時短テクニックを使ったレシピの調理デモンstrーション・試食会を行いました。



作り方

【5.6か月】人参は冷凍しておいたものをすりおろして使用。じゃが芋は電子レンジで加熱してつぶす。それぞれを容器に入れ昆布だしを加えて、レンジで加熱(1分~1分半)。

【7.8か月】じゃが芋・人参・玉ねぎをみじんぎり(1~2mm)し、鶏ミンチをかつお昆布だしでしっかり煮込む(だしパックに入れて煮込むと取り出しやすいため便利!)

【9~11か月】じゃが芋、人参、玉ねぎを5mmくらいのサイコロ状に切り、牛もも肉の薄切りは5mm四方の大きさに切る。かつお昆布だしでしっかり煮込む。調味料で味付け。

【12~18か月】9~11か月と同様に調理した後、だしをきって具のみ取り上げ、ボウルで具をつぶし丸める。溶き卵をくぐらせ、パン粉をつけて少量の油で焼く(オープントースターを使って焼いてもOK)。

幼稚園



附属幼稚園にペッパーくんがやってきた!

4月11日(木)、附属幼稚園は69回目の入園式を迎えました。この日、新入園児のみんなを驚かせたのは、お話できるロボット「ペッパーくん」。園児たちは、自分たちと同じ幼稚園の制服を着て、上手に話すペッパーくんに興味津々でした。



ペッパーくんは、5月生まれのお友だちの誕生会にもやってきてくれました。「わたしはペッパーです」などとしゃべったり、「おどるポンポコリン」の曲に合わせノリノリのパフォーマンスを披露しました。素敵なゲストの登場に、園児たちも大よろこびで一緒に踊り誕生会はとても盛り上がりしました。

中学校・高校

華麗な演技で観客を魅了
第9回身体表現コース発表会

5月2日(木・祝)、八尾市文化会館プリズムホールで「第9回身体表現コース発表会」を開催しました。発表会は樟蔭中学校「身体表現コース」開設を記念して2011年にスタート。毎年5月に開催していて、今では地域の恒例イベントとして定着しています。今年も中学校・高校の新体操部、ダンス部、バトントワリング部、ボンボンチア部の各部員が、日ごろの練習の成果を披露しました。常に全国大会で素晴らしい成績を残している樟蔭生の華麗な演技に、観客の皆さんもすっかり魅了されていました。



高校ダンス部が 新人戦西日本大会で優勝



高校ダンス部1年生のみが出場できる「第12回日本高校ダンス部選手権 DANCE STADIUM 新人戦」の西日本大会が3月29日(金)に大阪府門真市・東和薬品RACTABドームで行われ、ビッグクラス

で樟蔭ダンス部が優勝しました。選手権には近畿、四国、九州など9府県から113チームが出場し、ビッグクラスへの参加は59校でした。ダンス部は14人とビッグクラスとしては少人数チームでのチャレンジでしたが、本来の持ち味を大いに生かし、快挙を成し遂げました。

受賞・祝辞

Congratulations



中高バトントワリング部が 日本代表に

3月22日(金)～24(日)、「第44回全日本バトントワリング選手権大会」が丸善インテックアリーナ大阪で開催され、「2019年IBTFグランプリ大会」日本代表選考会が同時に行われました。樟蔭生はフリースタイルチームで日本代表に選出され、8月9日(金)～11日(日)にフランス・リモージュで開かれる「IBTFグランプリ世界大会」に出場します。また、同じく8月にフランスで行われる「第10回WBTFインターナショナルカップ」スリーバトン、アーティスティックワールの部でも日本代表に決定。キャプテンの●●●●さんは「世界大会に向け、さらに練習を重ねたい」と話しています。



日本バトン協会は6月2日(日)、協会の創立50周年記念式典で、樟蔭中学校・高校の体育科教諭バトントワリング部顧問の稲田麻衣子先生に感謝状を贈りました。

現在に至るまでの23年間、生徒の指導にあたり、学校クラブ活動のバトントワリングの普及発展とスポーツ芸術・文化の振興に貢献した功績が認められました。稲田先生は協会への感謝の言葉とともに、「小学校の頃にバトンを始め、選手、指導者、また部の顧問として、約40年間この競技とともに歩んできました。大好きなバトンの輪を次の世代にしっかりバトンパスできるよう、これからも活動に心を寄せて参りたい」と話しています。

新体操AGG、アジア、欧州で 世界大会に出場



中学校・高校新体操チームは3月31日(日)～4月5日(金)、シンガポールで開催された「AGGシンガポールCUP・四大陸ワールドCUP」に出場。中学生の部で優勝、高校生の部でも準優勝と、樟蔭の強さを世界にアピールしました。

また、5月16日(木)～18日(土)にスペイン・カルタヘナで行われた「第20回AGGワールドチャンピオンシップ」にも「チームShoin」として大学生6人、高校生2人が挑戦。大会に向けて練習に励んできた8人は、本番でも実力を発揮し、納得のいく演技を披露。その結果、国別3位という好成績を残すことができました。



吹奏楽部、全日本ブラ スシンフォニーコンクール出 場



中学校・高校の吹奏楽部は昨年12月24日(月)、東京・昭和女子大学見記念講堂で行われた「第4回全日本ブラスシンフォニーコンクール」本選に出場。生き生きとしたパフォーマンスの素晴らしさが評価され、高校生の部で敢闘賞を受賞しました。

部員たちは本選出場が決まってから日々、練習を重ねてきました。歴史の浅いコンクールだけに、どのような点に注意して演奏をまとめればよいか、悩む時期もあったそうです。ハードな練習を諦めずに続けた頑張りから、素晴らしい演奏が生まれました。



桂かい枝先生が 「繁昌亭大賞」を受賞



2007年から非常勤講師、2016年から客員教授として国際英語学科で教鞭をとる上方落語家の桂かい枝先生が、昨年11月22日(木)に第13回「繁昌亭大賞」(主催：天満天神繁昌亭)を受賞されました。

この賞は、年間を通じてクオリティの高い落語を披露し、繁昌亭の名前を広く知らしめた入門25年以下の落語家に贈られます。今年4月に噺家歴25周年を迎えたかい枝先生にとっては念願の受賞となりました。かい枝先生の担当科目は「Performance English」。学生は英語の小咄から稽古を始め、落語を一席演じきるところまで学びます。その成果は毎年2月の英語落語発表会で公開しています。

受賞・祝辞

Congratulations



日本赤十字社から感謝状

本学の40年間にわたる献血活動への協力に対して日本赤十字社から感謝状が贈られました。

毎年、校友会の学生たちの呼び掛けに学生・教職員らが協力し、学内で大阪府赤十字血液センターの献血バスを利用した献血や、府下の献血ルームで献血を行っています。今後も学生、教職員が一体となり、社会貢献活動の一環として、輸血を必要とする方の医療を支えるため、献血に協力していきたいと考えています。

芳野操先生に スポーツ功労賞



長年にわたり、樟蔭中学校・高校の体育科教諭として、また新体操部の顧問兼コーチとして中高・大学生の選手育成に携わり、多数の大会で優秀な成績を残してきた芳野操先生。その功績が認められ、大阪市体育協会から団体功労賞が贈られました。これは、大阪市のスポーツ振興と団体の発展に寄与した大阪市体育協会の加盟役員としての功労に対して与えられる栄誉です。

また、関西学生体操連盟から多年にわたり審判員として貢献してきた活動が高く評価され、功労賞が贈られました。

芳野先生は「学園と共に長く新体操に取り組めて幸せです。これからもますます新体操に情熱を注いでいきたい」と心を新たにしています。



東大阪税務署から 学園へ感謝状



租税教育の推進と税知識の普及に貢献したことが認められ、東大阪税務署から学園に感謝状が贈られることが決定しました。6月11日(火)に東大阪税務署長の内田正章さんから森真太郎理事長に感謝状が手渡されました。

感謝状は、国税庁が租税教育の一層の充実を図るため、児童・生徒に対する租税教育の推進のための基盤整備等に、特に功績のあった学校や団体へ贈られます。

学園では、大学の授業で継続的に租税教室を開催しているほか、樟蔭中学校の生徒が「平成30年度税についての作文」(国税庁・全国納税貯蓄組合連合会共催)に約90編の作文を応募するなど、租税教育の実践に対して表彰されました。

